

I. 長岡市の概要

1. 沿革

長岡のまちは、江戸時代、7万4千石の城下町として、牧野氏により12代約250年間に渡って統治されましたが、幕末期におけるまちなちのたたずまいは、その後、^{ぼしん}戊辰戦争で失われてしまいました。焼失した長岡のまちは、明治期に入ってから徐々に復興され、明治39年4月1日の市制施行により、新たな長岡市が誕生しました。

長岡市は、大正8年に施行された都市計画法に基づき、大正15年に都市計画区域、昭和3年に用途地域、昭和6年に都市計画道路をそれぞれ決定し、計画的なまちづくりを進めてきました。同年には、上越線が全線開通し、現在のJR長岡駅周辺の商業地域の整備を始め、昭和10年頃には城岡・蔵王地区に工業用地を確保し、積極的に企業を誘致するなど、計画的な整備が図られました。しかし、昭和20年8月1日に空襲を受け、長岡のまちは再び焼失してしまいました。

戦災によって焼失したまちを新しい都市として再建するため、新潟県知事施行の戦災復興土地区画整理事業に着手。その後、昭和の大合併を経て市域が拡大し、これに対応した都市基盤の整備が進められてきました。

昭和45年には、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区域区分し、土地利用の規制・誘導を積極的に展開することになりました。昭和50年代から60年代にかけては、上越新幹線、関越・北陸自動車道などの広域高速交通体系の整備が進むとともに、テクノポリスの指定を受け、長岡ニュータウンをはじめとする「産・学・住」の総合的なまちづくりを進めてきました。

平成に入ると、越の大橋の開通、国営越後丘陵公園の開園など、さまざまな都市基盤整備が進み、広域的なまちづくりが進展しました。平成17年4月1日に中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、平成18年1月1日に和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、平成22年3月31日に川口町と合併し、守門岳から日本海までの広大な市域と多様な地域資源を持った新しいまちとなりました。

近年では、JR長岡駅大手口に近接した厚生会館跡地に市民協働・交流の拠点となるシティホールプラザ「アオーレ長岡」を整備したほか、中心市街地に子育て支援やまなび交流、健康づくり、福祉などの拠点機能を集約し、多様な都市機能を提供する「まちなか型公共サービス」を展開しています。

また、平成25年には、(都)長岡東西道路のフェニックス大橋と(都)西津町古正寺線(左岸バイパス)が開通するなど、市内各地域や周辺市町村との連携強化、さらに広域的な都市間の交流促進に向けた道路網の整備を進めています。



アオーレ長岡 (平成24年4月オープン)

2. 位置と地勢

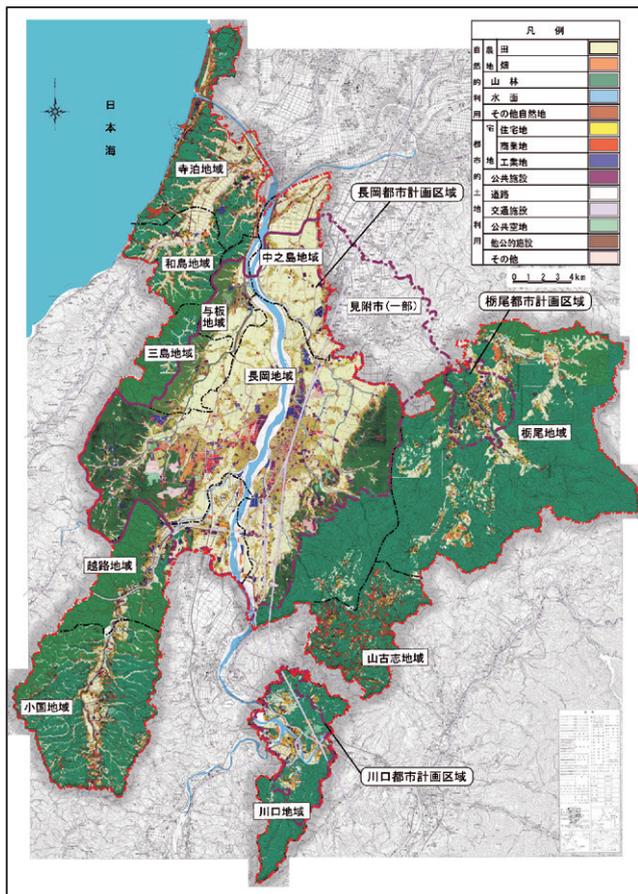
長岡市は、新潟県のほぼ中央に位置し、現在の行政区域面積は約 891 km²です。

市の中央部には日本一の大河信濃川が貫流し、その両岸に肥沃な沖積平野が広がっています。その東西には、東山連峰や西山丘陵地がそれぞれ連なっています。

市の東部にあたる山古志地域、栃尾地域及び川口地域の山間部には里山や棚田が広がり、栃尾地域の南東方面には越後山脈の守門岳がそびえます。また、日本海に面する寺泊地域には南北に約 16kmの海岸線を有しています。

このように、山地から丘陵、平野、海岸に至るさまざまな変化に富んだ地勢が長岡市の特徴となっています。

○長岡市土地利用現況図



○位置及び面積

(H29.4 現在)

東 経		北 緯		面 積 (km ²)	広 ぼう	
極 東	極 西	極 南	極 北		東西 (km)	南北 (km)
139° 7' 28"	138° 38' 35"	37° 10' 35"	37° 42' 37"	891.06	42.6	59.3

○地目別土地面積

(H29.1 現在)

地 目	総 数	田	畑	宅地	山林	原野	池沼	雑種地 その他
地 積 (km ²)	891.1	174.0	41.9	49.2	232.7	11.3	1.7	380.3
構成比 (%)	100.0	19.5	4.7	5.5	26.1	1.3	0.2	42.7

※地積は、端数を調整してあります。

3. 人口

長岡市の人口は、これまで幾度かの市町村合併を経て増加してきましたが、近年は減少傾向にあり、平成27年の国勢調査では約27万5千人となっています。

○人口の推移【国勢調査】

(各年10.1現在)

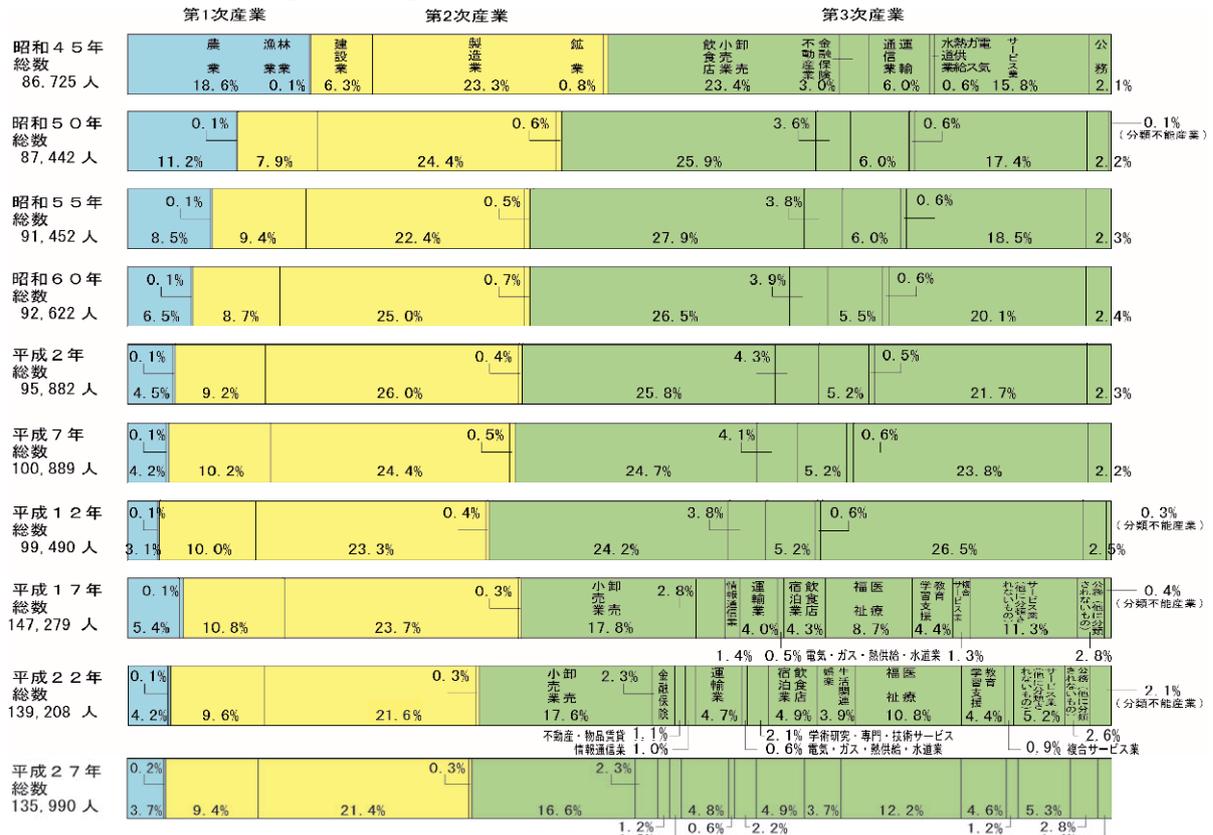
年次	人口	世帯数	世帯人員	面積 (km ²)	DID (人口集中地区)		備考	
					人口	面積 (km ²)		
大正 9 年	41,627	8,311	5.01	9.22				
昭和 5 年	14	53,156	10,156	5.23	15.90		※1	
	10	57,866	10,765	5.38	15.90			
	15	62,152	11,860	5.24	15.90			
	22	66,987	12,657	5.29	16.15		※1	
	25	54,958	11,331	4.85	16.15			
平成 2 年	30	66,818	13,719	4.87	28.11		※1	
	35	130,785	25,067	5.22	200.14		※1	
	40	148,254	31,201	4.75	259.92	77,072	8.7	※1
	45	154,752	36,124	4.28	259.92	85,135	9.9	
	50	162,262	41,010	3.96	259.92	89,512	11.1	
	55	171,742	46,792	3.67	259.92	107,272	15.5	
	60	180,259	51,559	3.50	259.92	110,480	17.1	
	66	183,756	53,345	3.44	259.92	109,526	17.3	
	72	185,938	56,425	3.30	262.63	116,643	19.2	
	78	190,470	61,725	3.09	262.45	123,311	21.0	
平成 17 年	84	193,414	66,680	2.90	262.45	123,641	21.9	
	90	288,457	96,722	2.98	890.91	130,053	24.2	※2
	96	282,674	98,725	2.86	890.91	133,277	25.9	
	102	275,133	100,143	2.75	891.06	132,473	27.0	

※1 市町村合併

※2 平成17年の数値は、平成18年1月1日及び平成22年3月31日の合併市町村分を合算しています。

○産業別就業者の推移【国勢調査】

(各年10.1現在)



※平成14年日本産業分類により、平成17年国勢調査から産業分類が一部変更となっています。

※平成17年の数値は、平成18年1月1日及び平成22年3月31日の合併市町村分を合算しています。

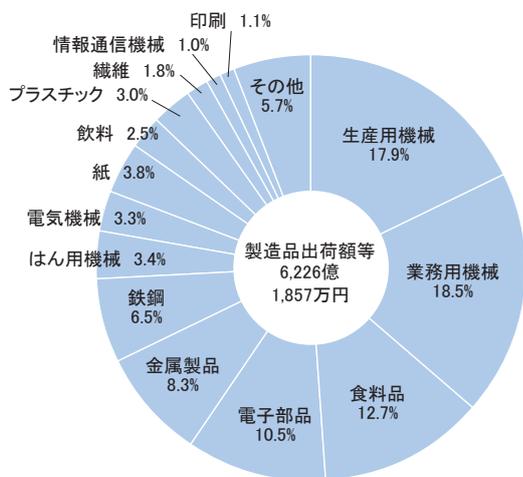
4. 産業

長岡市では、明治中期に東山油田が発見され、本市の基幹産業の基礎となる機械、化学工業が発達しました。現在は、一般機械器具をはじめとして、電子部品・デバイス、精密機械器具、食料品などの製造業が本市の産業を支えています。

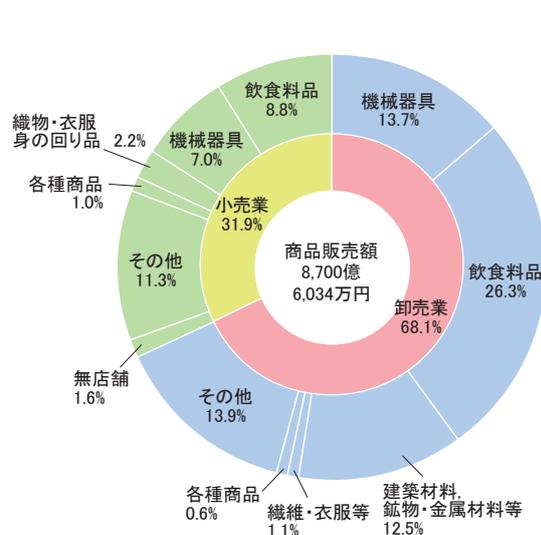
商業の面では、JR長岡駅周辺や千秋が原・古正寺地区を中心に、広域的な商業業務拠点を形成しています。現在は、中越地方のほぼ全域にあたる約82万人の商圏人口を抱え、県下第2の商業都市として発展を続けています。

農業では、信濃川両岸に広がる肥沃な越後平野を生かし、コシヒカリに代表される稲作が主に営まれています。また、地域ブランドとして「長岡野菜」などの生産にも力を入れています。

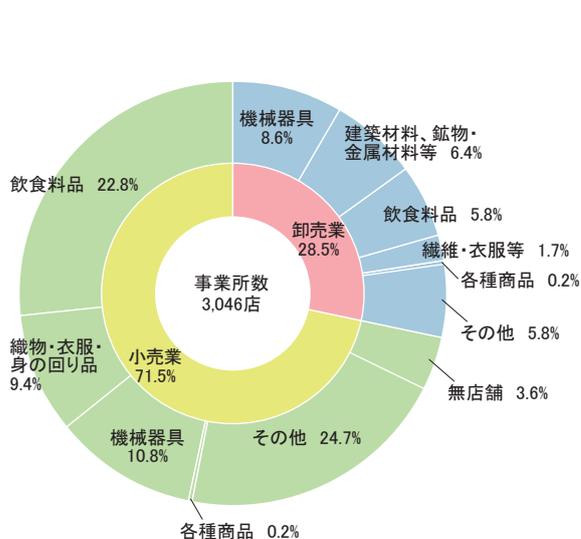
○製造品出荷額等(平成26年工業統計調査)



○年間商品販売額(平成26年商業統計調査)



○事業所数(平成26年商業統計調査)



○農業産出額(平成27年生産農業所得統計)

